

## モリアオガエルとイモリの池

前号でモリアオガエル産卵の期待を込めた校庭の池の話を紹介しましたが、思惑どおり期待以上の大産卵場の実現となりました。5月1日～10日の滞在中には、まだ産卵していませんでしたが、ラブコールが聞こえていたので大いに期待しつつ15日に行くと1か所に2卵塊が産みつけられていました。大喜びしたのですが18日の夜には約10塊、19日にも同程度以上の産卵（写真5）があったのです。両夜共に小雨が降り続き気温も高めで終夜ラブコールが煩いほど途絶えることがなく、夜中に覗きに行くとメスが水面にポカンと浮いている姿と池の縁の岩の上で懸命にコールしているオスも確認できました。

18日に産みつけられた卵塊の一つは下側 1/4が水中に浸かっており、一部が溶けて水面に白い泡が浮いていました（写真2）。この卵塊には数個体のイモリが頭を突っ込んで卵を食べて腹が丸くなるほどになっていました。孵化したオタマジャクシが落下してくるのを待って捕食するなどという悠長な生態ではなく、腹がはちきれんばかりのイモリを見ることになったのです。池のオーバーフローの高さを10センチほど下げて卵塊が水に漬からないようにしましたが、どのくらいの卵が残っているのでしょうか？

モリアオガエルの産卵は木の枝に一つ一つ産みつけられた白い泡巣の写真が、季節の風物詩として例年では6月頃に新聞などでも度々紹介されています。しかし、水上に枝を差し延ばした樹木がなくても、水際の草にも産卵します。この池でもドウダンツツジの枝に多くの塊が産みつけられましたが、池縁に生えている丈の低い草にもたくさんの卵塊が見られます。あまりにも卵塊が接近しているので正確にその数を数えることができない程ですが、この小さな水を張ったばかりの池に一体何匹のモリアオガエルが集合してきたのでしょうか？ 産卵は1シーズン1回なのでしょうか？ オスの方は？・・・

20日に研究所を去る時も日中ですが、まだラブコールが盛んに聞こえていましたので、さらなる産卵が行われると期待しました。また、下界？より一足早い田植えの行われた水田の石垣の草にも産卵しているところを見つけました。国道を自転車で走っていると、たんぼの畦に白く点々と並ぶ物が見えたのでまさかと思いつつ確認するとモリアオガエルの卵塊の列だったのです（写真1参照）。樹上産卵のイメージが強い本種の産卵生態ですが草つきの方が多いのではないかと思わせられるくらいです。このような生き物の新鮮な生

態が展開されていくハンザキ研の環境は、全くのところ私にとっては天国のように思え、つつい再々このニュースレターの原稿には“下界”などとの表現が出てしまいます。

5月30日にはオタマジャクシが確認されました。文献では7～10日くらいで孵化すると書かれていますが、産卵後の気温の低くさが響いたのででしょうか少し遅れたようです。山際にある児童用のプールでも卵塊を確認しましたが、いずれもオーバーフローの位置にお供え餅のように産みつけられていて、孵化した幼生は水中には落下出来ない場所です（写真3）。そんなことでいいのかなと疑問を持ちましたが、やがて4か所5卵塊ともに食害を受けて消えてしまいました。この後も次々とコンクリートの上で産卵していましたが、いずれも孵化に至らず、食害を受けたようで消えてなくなりました。水田の畦に白い帯をなすかのように産みつけられていた卵塊も目立たなくなってきました。地面近くに産みつけられるとヘビなどに食われやすくなるのでしょうか。また、孵化が続く卵塊にサソリのような尾を振り上げた虫が吻部を差し込んでいたり、ハエが群がって止まっていたりしているのを観察しました。落下しきれずに、ぶら下がったまま乾燥して死んだオタマジャクシがツララのようになっていました（写真7）。そして、水中ではなく石の上に落ちて乾いて死んでいるのも多数見られました（写真8）。豆腐の容器に水を入れて受け止めて通るたびに池に移してやりましたが、なんとも世話の焼ける事です（写真9）。

運良く水中にダイビングできても（写真6）、そこにはイモリが待ち構えていて次々と食われてしまう。モリアオガエルの産卵シーンや産みつけられた卵塊は自然度の高さを示すバロメーターかもしれないが、イモリやシマヘビなどに多くの卵や幼生は食われ、鳥にも襲われる？という食物連鎖の底辺近くをカエル類が支えていることを如実に示しています。それでもなお水田や池には多くのオタマジャクシが泳ぎ回り、その大きさにも差が見られあつと言う間の成長の差を物語っており遅しさも感じさせられます。

池から5㍎も離れた学校の玄関の階段下の草の中にも2回産卵を確認しました。一体彼らは何を考えていたのでしょうか？ 池縁の草の池とは反対側の根元にも産卵しましたが孵化したオタマジャクシの行き場はありません（写真4）。しょうがないかと、金網を池の上にセットし、そこへ卵塊を移し飛ばされないようにネットを掛けてやりました。池の上に枝を延ばしていたクロマツの枝は、針葉が痛いから使わないのかと見ていましたが、ある朝、見に行くくと盛んに産卵行動を行っていました（写真10）。

今年のハンザキ研では、5月の10日過ぎに産卵が始まり、20日頃がピークで、6月下旬までダラダラと続きました。池で50塊ほど、プールでは20塊ほどの産卵が行われたと思いますが、全体では何匹のモリアオガエルが集合したのでしょうか？ ついこの間まで水の無かった小さな池をどのようにして探したのか不思議な気がします。今では数匹のトノサマガエルも泳いでいます。カエルを求めてシマヘビも池の周囲を徘徊するようになりました。今年は池の上にもっと多くの樹木が枝を延ばすように、植栽を考えてみたいと思います。腰を据えてジックリと観察すると生き物たちの思いがけない生態が見えてきます。

## NPOの若い助っ人たちの力

閉校以来十数年間、迷い込んできて死んでいったカメムシ類の数知れない死体や粉末で来訪者は顔を顰めることが再々でした。学外実習で来た専門学校の女学生は旧・職員室であった研究室へ入るとすぐに窓を開けはじめました。よほど香り？がきつかったのでしょうか、私は慣れてあまり感じなくなっていたということでしょう。

26日金曜日の夕方には四国や大阪で仕事を終えたNPOの若い人たちが5人駆けつけ、翌日にはさらに3名が参加して、大掃除をしてくれました。前日からの5名は皆“ミノムシ状”に寝袋に納まってごろ寝でしたが、元気な二人は数時間の調査で7個体のオオサンショウウオをチェックしてきました。

翌日は朝から旧の朝来・和田山・山東・生野4町役場からの余剰備品類の清掃や配置をしてくれたのです。一人では到底出来ない作業ですので大変に助かりました。あれもやりたいこれもやりたいと気持ちだけ焦っても、体力の衰えだけはいかんともできません。見違えるように綺麗になった廊下を思い影が走りました。トラップに掛かったのはアカネズミ？のようですが、専門の方に同定をお願いしています。草刈りは地域の方々がやってくれるとのことで、丸刈りにしないで一部は刈り残して何がどの様に生えてくるのか観察したいと考えています。こうやって多くのサポーターの手を借りながら、徐々にでもハンザキ研の整備を進めていきたいものです。皆さん、今後ともよろしくお願いします。

.....

## はんざきブロック・コレクション

“はんざきブロック”は河川工事で使われる環境ブロックの商品名です。一昨年3つの大きな台風で災害が発生した豊岡市の円山川支流出石川の復旧工事でも多数使用されています。このブロックのパンフレットや設計図を見せられても素人の私にはピンと来ません。まあ、川岸に空間が確保されるのだからいい事だろうとしか考えていませんでした。しかし、「オオサンショウウオ対策検討委員長」としては、それでは済まないことだと思い、メーカーにワンセット3ブロックを頂きました。ハンザキ研の縁側に沿ってびったり納まったブロックを眺めていると、写真だけでは見えてこなかった欠点やより効果の出ると考えられる改善点が浮かび上がってきました。

折角の工事ですから、同じブロックを使うにしてもより効率的な物に工夫を加えれば、生き物たちにとっても好都合でしょう。設計担当の方々へ生き物屋として素人考えですがと断りながら、幾つかの提案をすることができました。あとはプロである人たちが、その誇りを掛けてクリアしてほしいと思います。私は素人ですので、今後もこのようなコレクションをしながら、より良い河川工事ができるようにと考えていきたいと思っています。

(ブロックのメーカーは岡山県のランデス株式会社電話0867-52-7000)

## ハンザキ研日誌 2006年5月

- 1日：ゴールデンウィーク中の調査～10日（GS-201） 24 個体測定  
15日：～20日調査（GS-202） 7 個体測定  
：18・19日の夜モリアオガエルが校庭の池周辺で多数産卵  
19日：日本工科専門学校・都市工学科1年生等14名学外実習でハンザキ・ウォッチング、風雨が強くなり夜間観察は中止、数名がヤマビルに取りつかれる。  
：ヤマセミのペアを再確認する。校舎の南西の山側をパトロールしている。  
：研究所周辺でシカ2体、タヌキ1体の骨を収容する（交通事故？）  
24日：旧・朝来郡4町役場からの余剰備品の搬入  
25日：～31日調査（GS-203） 16 個体測定  
：第一回黒川地域活性化協議会開催・今年度の事業計画検討  
26日：はんざきブロック（ランダス社製品）3個一組（約5トン）の据え付けと展示  
27日：NPO メンバー8名が清掃と備品の配置作業実施、見違えるように綺麗になった  
30日：県・柏原土木事務所他来所・由良川水系武田川支流前山川（さきやまがわ）のオオサンショウウオ調査結果報告と対策検討（ハンザキ研にて）  
：～31日兵大府立大学・田口さんが授業を終えたあと23時頃に来所し、一晩の調査を実施。  
：朝来市内12か所に「日本ハンザキ研究所ニュース」のファイルを設置して頂くべく配付終了。まずは地元への口コミ宣伝が肝心と考えています。

（今月は3回23日間の出勤？でした。来訪者を含めて総計84人の利用がありました。昨年8月の開所以来19回61日、総計195人の利用という状況です）

### ハンザキ - グッズ - コレクション

#### 3) 島根県

① 出雲市平田町：[島根県立宍道湖自然館] 朶（紙製）カン・バッジ（自家製）

② 邑智郡邑南町：[瑞穂ハンザケ自然館]

花瓶・一輪挿し・灰皿・湯飲み・マグカップ・箸置き（陶器製）

温度計・キーホルダー・パズル・壁掛け（木製）

針山・キーホルダー（布製） 朶（紙製）ハンザキ写真付き切手

\* これらの大部分は「救護施設さつきの園」の方々の作品だそうです。

“作業指導の中で入所者の皆さんが一つ一つ丹精を込めて作られたものです。多少の傷あるいは不揃いもあるかもしれませんが、どうかお許しを頂き、末長く御愛用くださいますように”とのメッセージ付きで、ハンザケ自然館で販売されています。



写真1 水田の石垣にズラリと並んだ卵塊 (約30塊)



写真5 十数塊が一晩で産みつけられた



写真2 水に漬かって食い散らかされた卵塊



写真6 ダイビング直前の  
オタマジャクシ



写真7 落ちきれず  
ツララ状にオタマの干物



写真3 コンクリートの上で  
全身泡だらけになって巣づくり中



写真10 松葉にも産卵



写真4 池から5分も離れた卵塊 (円内)

写真8 風に煽られて石の上に落ちて  
干からびたオタマ



写真9 ブラケースに水を入れてキャッチ